情報通信審議会　ＩＣＴ基本戦略ボード（第８回）議事録

１　日 時　平成24年7月3日（火）　10:00～12:00

２　場 所　総務省第１特別会議室（中央合同庁舎２号館８階）

３　出席者

(1) 構成員（敬称略）

村上 輝康（座長）、岩浪 剛太、江村 克己（代理）、嶋谷 吉治、関　祥行、堤 和彦、所　真理雄、中川 八穂子、野原 佐和子、野村 敦子、三膳 孝通、森川 博之、三輪 真

(2) 総務省

森田総務大臣政務官、小笠原総務審議官、利根川情報通信国際戦略局長、
久保田官房総括審議官、阪本官房審議官、横田情報通信国際戦略局次長、
布施田通信規格課長、大橋情報流通行政局総務課長、黒瀬情報流通振興課長、
佐々木放送政策課長、古市事業政策課長、竹内電波政策課長

(3) 事務局

山田情報通信国際戦略局参事官、渡辺情報通信政策課長、中村融合戦略企画官、
岡野技術政策課長、山口技術政策課統括補佐、齋藤データ通信課長

４ 議題

(1) 意見募集結果について
(2) 報告書（案）について
(3) 自由討議
(4) その他

５ 議事録

【村上座長】　　それでは、定刻になりましたので、ただいまから、情報通信審議会ＩＣＴ基本戦略ボード第８回の会合を開催させていただきたいと思います。

皆様、ご多用中、ご出席いただきまして、大変ありがとうございます。

本日は何人かの方がご欠席ですけれども、江村構成員の代理で山田さんがご出席いただいております。関構成員は１１時半ごろご退席の予定でございます。

本日は、非常にお忙しいところだと思いますが、森田政務官にご参加いただいておりますので、最初にごあいさつをいただきたいと思います。ご所用がおありということで、冒頭のごあいさつのみで退席をされます。よろしくお願いいたします。

【森田総務大臣政務官】　　おはようございます。政務官の森田でございます。本日は８回目、今回で１つ区切りというところでございますが、本日も本当にお忙しい中、構成員の皆様方におかれましては、ご参集いただきまして本当にありがとうございます。

村上先生をはじめ、昨年１１月から今回の基本戦略ボードが立ち上がりまして、合計８回、大変活発なご議論をいただきまして、方向性を示していただきましたことを心から感謝申し上げたいと思います。

本ボードでは、２０２０年ごろに向けましたＩＣＴの総合戦略につきまして、知識情報社会の実現を目指して、新事業創出や研究開発という観点などからご検討いただいたわけでございます。特に世界における我が国というものをもう一回認識して、崖っぷちという状態からどうやって脱出するかという危機感のもと、本当に活発なご議論と展望をいただいたわけであります。

本日、お取りまとめいただく予定の新しいＩＣＴ総合戦略におきましては、今までの延長線という話ではなくて、グローバルな視点をしっかり盛り込んだ中での技術開発、そしてそれを社会実装するということの考え方を取り入れまして、５本の柱を出してもらいました。

こういったコンセプトの実現というものは、我が国の抱える諸問題、課題先進国とよく言われますが、それに解決する一筋の道筋が示されるということと同時に、それが結果として経済成長に大きく寄与するというものになると思っておりまして、何より国民あるいは産業界、さまざまな方々に勇気を与えるというものになってきているのかなと感じております。

具体的に考えていきますと、ビッグデータの利活用やスマートテレビの推進というものは、我が国のビジネスの活性化や、もちろんこれは社会保障にも通じるものもあります。あるいは、それから先の新事業の創出というものにもつながるわけですから、大きな意義があるわけでございます。

また、社会実装によって、高齢化が進みます我が国の世代の方々が社会参画しやすいと

いうことができます。２０２０年というものを考えますと、高齢化比率３割という時代が見えてくるわけですから、そういった状況の中で、どうやって課題を解決するかということは大変なことなんですが、やはりＩＣＴというものが大きなツールというか、それしかないと感じられるところでもございます。

総務省としましても、ご議論いただいた内容をしっかり政策に反映させてまいりたいと思っておりますし、先生方におかれましても、最後まで密度の濃いご議論をいただきまして、今後ともご指導いただきたいとお願い申し上げます。よろしくお願いします。ありがとうございます。

【村上座長】　ありがとうございます。すばらしい総括をいただいた感があります。どうもありがとうございました。

それでは、議事に入ってまいりたいと思います。事務局から、本日の資料の確認をお願いいたします。

【中村融合戦略企画官】　本日の配付資料でございます。

お手元の資料、議事次第のほか、資料基８－１から８－５までで構成されてございます。また、そのほかに、メインテーブルには、岩浪構成員から本日ご提出いただきました資料、ポンチ絵でございますが、こちらもお配りさせていただいてございます。

以上でございます。過不足等ございましたら、お申しつけいただければと思います。

【村上座長】　よろしいでしょうか。資料基８－１の第７回の会合の議事録（案）につきましては、既に構成員の方に照会をさせていただいておりますけれども、さらに修正がございましたら、７月６日金曜日までに事務局までお知らせください。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。初めに、事務局から、６月２日から７月１日までの間、募集しておりました報告書（案）に対する意見募集の結果につきまして、ご報告いただきたいと思います。

続きまして、事務局より、意見募集の結果等を踏まえた２０２０年ごろに向けたＩＣＴ総合戦略（案）につきまして説明をいただきたいと思います。その後、自由討議としたいと思います。

それでは、初めに事務局から報告をお願いします。

【中村融合戦略企画官】　それでは、意見募集の結果の概要について、資料基８－２に基づきまして、ご報告をさせていただければと思います。

資料基８－２を１枚おめくりいただきまして、意見募集の概要でございます。６月２日

から７月１日まで、１カ月にわたりまして、今回の報告書（案）につきまして意見募集をさせていただきましたところ、２１の機関、個人から計４２件のご意見をちょうだいしてございます。４にございますとおり、１７の民間事業者等、４者の個人の方々からご意見をちょうだいしたというところでございます。

その次の２ページ目以降で、具体的にちょうだいしたご意見と、それに対します考え方の案ということでご説明をさせていただければと思います。

２ページ目でございます。まず初めに、テレビ局の関係でございまして、テレビ朝日から、具体的にはアクティブコンテンツの戦略の部分について、伝統的なコンテンツ産業構造が疲弊しないような特段の配慮が必要、また、コンテンツの拡大再生産が図れるよう、クリエイター等にきちんとした対価の還元が行われる環境整備を図る必要があるということでございます。特にオープンプラットフォーム環境の実現によりまして、さまざまなプレーヤーがアプリケーションですとかコンテンツの開発・提供といった場合につながる場合、特段の配慮なしに無条件に実現するわけではないということでございます。

それから、２番目、同じく少しご説明をさせていただきます。ＴＢＳテレビから、これもやはりアクティブコンテンツの関連でございますが、知のアーカイブ化について、関係者を交えた慎重な議論が必要ということでございまして、特に放送関連の素材といたしまして、関係する方々も多く、報道機関としての放送局が制作しているものだけに、人権やプライバシーの問題を含む素材も存在するというご意見もちょうだいしてございます。

それから、３番目でございます。同じくテレビ局からでございますが、オープンなプラットフォーム環境の実現、それから知の高機能アーカイブ化の実現といった、これもアクティブコンテンツ戦略の関連の部分でございますが、こういった放送コンテンツの利活用に当たりまして、適正な利活用によるコンテンツ市場の活性化という観点からの取り組みが重要ということでございまして、特に著作権等、現行制度との整合性への配慮も必要だというご意見もちょうだいしてございます。

４番目のご意見でございます。同じくテレビ局から、こういったオープンプラットフォーム環境の実現に当たりまして、オープンな環境に伴うデメリットが生じることのないよう、十分留意する必要があると考えるということでございまして、玉石混交の情報が整理されないまま、伝達されることがあると、利用者の混乱につながるというご懸念でございます。

それから、同じく５番目のご意見、放送番組のアーカイブ化に当たりまして、取材活動

に及ぼす影響、人権、著作権等への配慮が必要であり、慎重な議論を望みますというご意見をちょうだいしてございます。

以上、１番目から５番目、特にテレビ局から、こういったオープンプラットフォーム環境の構築、あるいは知の高機能アーカイブ化の実現といった部分につきまして、配慮するようにというご意見をちょうだいしたところでございます。

以上の５件のご意見につきましては、アクティブコンテンツ戦略関連の部分の中に、次のような文章を追記してはどうかと考えてございます。

「なお、これらのオープンなプラットフォーム環境でのコンテンツ流通、あるいは知の高機能アーカイブ化等の推進に当たっては、コンテンツの拡大再生産が図れるような環境整備や、プライバシー、著作権等への配慮も重要である」と。こういったご意見を追記させていただくこととしてはどうかと考えてございます。

それから、先ほどの続きでございます。意見番号６番目でございます。スカパーＪＳＡＴから、特にアクティブコミュニケーション、インフラ整備の部分についてでございます。重層的ネットワークの整備といった部分の記述でございますが、壊れない、ふくそうしないネットワーク環境の実現に当たって、耐災害性、広域性等を特徴に持つ衛星通信の活用も考慮することが重要だということで、特に手段といたしまして、衛星通信等というワードも具体的に追記してはどうかというコメントもちょうだいしてございます。

ご意見のとおり、こういった災害時、緊急時におけます重層的ネットワークの実現といったことにおきましては、こういった衛星通信の重要性、有効性も認識されているところでございますので、ちょうだいしたご意見も踏まえまして、このアクティブコミュニケーション、インフラ整備関連の部分の記述に無線ＬＡＮ等の手段と並びまして、衛星通信というキーワードも追記してはどうかと考えておるところでございます。

それから、その次の４ページ目でございます。意見番号７、山梨県から、特にアクティブライフ戦略の中で、防災、医療、教育といった部分の記述がございます。こういった防災、医療、教育、環境等の分野における新たなＩＣＴ利活用モデルの創出、普及促進の具体的方策の中に、自治体による防災救急関連情報を迅速、円滑かつ確実に伝達するための情報通信基盤の整備といったことを具体的な方策として追記してはどうかというご意見もちょうだいしてございます。

これにつきましても、今回の震災を踏まえまして、こういった自治体の取り組みの重要性といったことも認識されているところかと思いますので、よろしければ、この右側にご

ざいます、「自治体による防災・救急関連情報を迅速、円滑かつ確実に伝達するための情報通信基盤の整備の促進」ということも具体的方策の欄の中に入れさせていただければと考えてございます。

それから、ご意見８番目でございます。ソフトバンクグループから、特に人材の関連かと思ってございますが、情報通信端末といったハード面での環境整備のみならず、その環境を生かすために、ＩＣＴ関連の支援要員の育成といった運用面にも十分に配慮することという内容もご提案いただいてございます。

具体的には、こういった情報通信端末の活用に当たりましては、その配布にとどまらず、ＩＣＴ関連の支援員の育成及び活用ノウハウの蓄積といったソフト面によるＩＣＴ運用環境の整備に向けた施策も推進していく必要があるというご意見でございます。

こういった観点も、特に人材育成、あるいは体制整備といった部分で重要な観点かと考えてございまして、特に今回もグローバル人材の育成といった記述をさせていただいている部分がございますが、こういったところに、「なお、これらの人材育成、環境整備等の施策推進に当たって、これらの人材をサポートする要員の育成・確保等にも配慮することが必要である」という、特にサポート、側面から支援する人材の育成・確保といったことも改めて明記してはどうかと考えておるところでございます。

それから、その次の５ページ目でございます。意見番号９、個人の方からご意見をちょうだいしてございます。幾つかご意見をちょうだいしておるところでございますが、特に１から８までご意見をいただいてございまして、５番目、東日本大震災では、防災の大切さとともに、限界も学んだはず、減災という言葉が加えられないかというご意見。あるいは、高齢社会対応システムという言葉が使われてございましたが、少子高齢社会の一部分しか対応していないというご意見でございます。

さらには、セキュリティ、プライバシーの保護への言及が弱い。それから、オープンガバメントをトピックとして取り上げてはどうかというお話。

それから、アクティブというキーワードについてでございますが、ＩＣＴと自助、共助、公助の融合といったことがアクティブＩＣＴの原点になると考えるというご意見を個人の方からちょうだいしてございます。

特にこの中で、減災という言葉の重要性についても認識しているところかと思いますので、防災という記述があった部分、防災・減災といった言葉に修正させていただいてはどうかと考えてございます。

また、高齢社会対応システムという言葉もございましたが、これも少子高齢社会対応システムという言葉に修正させていただくのがよろしいのではないかと考えてございます。

そのほかのご意見でございますが、セキュリティの確保あるいはプライバシーの保護の重要性といったことにつきましては、既に記載をさせていただいておるところでございますし、またデータのオープン化、各種データを横断的に利活用できる環境の整備といったことにつきましても、既に記述させていただいている部分がございますので、その辺を改めてここで確認させていただくといった趣旨でございます。

それから、意見番号１０番と１１番についてでございます。特にアクティブコンテンツ戦略の関連の部分でございます。デバイスフリー、ワンソース／マルチユースで高精細、高臨場感がリッチコンテンツを製作・利活用できる環境の実現といった部分につきましては、基本的にご賛同いただいた中で、地上放送、衛星放送など、既存メディアとバランスのとれた製作が必要と考えるというご意見でございます。

また、４Ｋ、８Ｋの確立という部分に関連いたしまして、今後の具体的な進め方、具体的な留意点といたしまして、映像サービスのビジネスモデルは、広告モデル、有料モデルの双方のサービス実現を考慮した政策が必要と考えるというご意見をちょうだいしてございます。

１０番目のご意見につきましては、基本的にご賛同いただいたご意見としてと考えてございます。また、具体的方策といたしまして、既存メディアとバランスのとれた政策ということにつきまして、利用者起点という視点で、これから進めていくことがまさしく重要であると考えておるということを書かせていただいてございます。

また、４Ｋ、８Ｋの確立に関する部分でございますが、これにつきましても、リッチコンテンツ戦略の中で、４Ｋ、８Ｋの確立とこれらが実装された端末サービスの普及推進ロードマップを早期に策定するための体制整備等、具体的方策といったことを書かせていただいてございますので、そこでカバーされているかなと考えてございます。

それから、６ページ目でございます。このページからは、基本的にご賛同いただいているご意見を少し並べさせていただいているところでございます。意見番号１２といたしまして、アクティブデータ戦略につきまして、まずこういった考え方に全面的に賛同するということ、それから、政府、行政が保有しているデータのカタログ化、公開可能なものから早期に公開に着手するといった施策をお願いしたいというご意見をちょうだいしてございます。また、アクティブライフ戦略の関連の部分でございます。ナチュラルユーザイン

ターフェース技術あるいはリアルコミュニケーション技術といった技術の開発を進めることにつきまして、また社会実装と連動してプロジェクトを進めていくという考え方につきまして賛同するというご意見もちょうだいしておるところでございます。

それから、その次のページでございます。７ページ目、ＣＩＡＪから、全体につきまして、従来の戦略推進手法の課題を踏まえた内容になっているということ、それから産業創出という目的意識が従来以上に強く打ち出されているということから、その内容に賛同するというご意見をいただいてございます。

また、今回の取りまとめ案の具体化がまさしく必須条件であり、実効性ある取り組み実現までのフォロー、それから取り組み状況の見える化、取り組みの主体者の早期設定といったことを要望しますという具体的な進め方につきましても、あわせてご意見をちょうだいしておるところでございます。

それから、同じく１５番目でございます。アクティブコミュニケーション、インフラ構築関連の部分でございますが、我が国のモバイル関連産業の国際競争力が向上する政策の具体化を希望するということでございます。今回の報告書（案）の中でも、特にワイヤレス関連のビジネス創出を目標といたしまして、ワイヤレス環境の整備促進といったことにつきましても、既に言及をさせていただいてございますので、そのあたりに触れてございます。

それから、８ページ目でございます。意見番号１６といたしまして、関係省庁と連携して、官民一体で我が国のＩＣＴシステムを海外展開するという考え方に賛同するという中身。それから、具体的方策といたしまして、我が国が強みを有するＩＣＴシステムを他の社会インフラとパッケージ化するという考え方に賛同するというご意見をいただいてございます。

それから、アクティブコンテンツ戦略の関連でございますが、こういったいつでもどこでもだれでもがデバイスフリー、ワンソース／マルチユースで高精細、高臨場感なリッチコンテンツを製作・利活用できる環境の実現ということを達成することに賛同するというご意見をいただいてございます。

また、こういった４Ｋ、８Ｋの確立、これらが実装された端末サービスの普及推進ロードマップを早期に策定するための検討体制の整備ということにつきまして、具体的な政策として可能な限り早期に実施いただくことを要望いたしますというご意見もちょうだいしてございます。

それから、意見番号１８番目でございます。全体的な目標あるいは方策について賛同しますと。ただ、内容が研究開発に終始しており、技術的側面以外のコストですとか制度、リテラシー教育、国民への周知といったことにつきましても、あわせて整備を行う必要があると考えるというご意見をちょうだいしてございます。

特に今回の報告書の中では、もう皆様ご案内のとおりでございますが、技術開発、研究開発の部分に終始したというわけでもございませんので、関連する規制、慣習、社会制度等といったものへの対応、あるいは配慮を含めた検討の実施が必要であるということも既に報告書（案）の中で取りまとめさせていただいてございますので、その辺を改めて書いているところでございます。

それから、９ページ目、意見番号１９番でございます。ケーブルテレビ会社からご意見をちょうだいしてございますが、「Active ICT Japan」の実現に向けては、５つの重点領域について、本報告書の趣旨に賛同するということでございまして、こういった「Active ICT Japan」の実現に向けて、地方ケーブル局がその地域の官学と一体となって、新たな問題解決型事業に取り組むことが可能となるような施策をご検討いただきたいというご要望もちょうだいしておるところでございます。

それから、１０ページ目でございます。意見番号２０番目でございます。特にこのアクティブコミュニケーションの関連でございますが、研究開発から市場創成までの一貫したパッケージ政策を展開することが必要となってくる。あるいは、ＩＣＴを活用したエネルギーマネジメントといった関連の記述につきまして、内容に賛同するというご意見をちょうだいしておるところでございます。

それから、その下、２１番目のご意見でございます。ＮＧＮですとかＬＴＥといった今後の重要な社会インフラとなるネットワークにおいて、多くのプレーヤーがさまざまなサービスを提供する健全な競争環境が整備されることが重要である。その実現を図るため、総務省のさらなるご指導を期待するというご意見をちょうだいしてございまして、まさしくブロードバンドの普及促進といった中で、公正な競争環境の整備といった記述もさせていただいておるところでございますので、ご賛同いただいたご意見ということで理解しておるところでございます。

それから、その次の１１ページ目でございます。意見番号２２番でございます。ビッグデータの利活用に関連いたしまして、こういったビッグデータの利活用の促進が期待されると。特に、ライフログの活用といった分野におきまして、過度の個人情報保護に陥るの

ではなく、利活用と保護のバランスに配慮した推進を期待するというご意見をちょうだいしておるところでございます。今回もアクティブデータ戦略の中におきまして、個人情報ですとか著作権等の保護といったこととのバランスに配慮した利活用のあり方、こういったことも具体的な課題として掲げさせていただいておるところでございます。

それから、２３番目のご意見でございます。やはりアクティブデータ戦略の関連でございます。官民データのオープン化、各種データを横断的に利活用できる環境整備といったことに加えまして、ビッグデータの活用に関するＩＣＴの利活用を阻む規制・制度改革の促進といったことが書いてございます。こういったものにつきまして、速やか、かつ着実な推進を期待するというご意見をちょうだいしておるところでございます。

それから、１２ページ目でございます。２４番のご意見でございますが、アクティブコンテンツの関連でございます。４Ｋ、８Ｋの確立、これらが実装された端末・サービスの普及推進ロードマップを早期に策定するための検討体制の整備といった部分につきまして、本提言内容に賛成であるというご意見をちょうだいしてございます。

また、２５番目でございます。日本ケーブルテレビ連盟から、アクティブコンテンツの戦略につきまして、リッチコンテンツ戦略が必要とするこの報告書（案）の趣旨に賛同するというご意見をいただいてございます。

それから、１３ページ目でございます。テレビ局から、コンテンツ関連の部分につきまして、視聴者の安全・安心のため、スマートテレビによるコンテンツ流通に関するルールの早期具体化、及びその推進体制整備といった記述がございますが、こういった部分につきまして賛同するというご意見をちょうだいしてございます。

それから、ご意見２７番目でございます。日本ユニシスから、今回のＩＣＴ総合戦略に基本的に賛同するとともに、戦略の着実な実施を期待しますというご意見もちょうだいしておるところでございます。

それから、その次の１４ページ目でございます。２８番目、同じく社会実装と連動した新たなＩＣＴプロジェクトの推進といったことにつきまして賛同するというご意見をいただいてございます。

それから、人材の育成の関連でございますが、法律とＩＣＴ双方に詳しい人材等、幅広い観点での人材の育成が必要であるというご意見をちょうだいしておるところでございます。特にこのアクティブデータ、ビッグデータ関連の部分につきまして、あるいはグローバル人材の育成といった部分におきまして、総合的な視点を持つ人材の育成が必要である

という記述をさせていただいてございますので、そこを改めて紹介してございます。

それから、同じくビッグデータの関連でございます。データの二次利用に関するルール整備、オープンデータ環境整備に向けた開発や標準化については、さまざまな関係者の意見を踏まえることが可能な検討の場を設けるべきと考えますということでございます。

これも今回、アクティブデータ戦略の中におきまして、異業種・産学官の連携によりますビッグデータの活用に関する推進体制の整備といったことを具体的方策の１つとして書いてございますので、そこを改めて紹介させていただいてございます。

それから、３１番目でございます。従来の施策でＩＣＴの利活用が進まなかった理由をしっかり検証し、その障害を取り除いた上で、今後の利活用促進策を検討すべきだというご意見をちょうだいしておるところでございます。考え方でございますが、今回のご意見の中で、やはり研究開発と社会実装の結びつきが必ずしも十分でなかったという点ですとか、ＩＣＴを使う利用者側の視点が、特に事業化の過程におきまして十分ではなかったという分析もさせていただいてございますし、今後、利用者起点でのＩＣＴの社会への適用／実装ということが重要であるという記述を既にさせていただいてございますので、改めてそういった部分をご紹介させていただいております。

それから、１５ページ目、ご意見３２番目でございます。我が国のねらうべき姿と「Active ICT Japan」、これの関係ということでございまして、我が国のねらうべき姿が明確になっていない状況では、ＩＣＴの策定を行うのは国費の無駄を招きかねないというご意見、少子高齢化、デジタルデバイド、日本国の人口減少問題に対して、「Active ICT Japan」が有効なのかどうかもわからない、説得力に欠けるというご意見もちょうだいしてございます。

これに対しましては、今回のご議論の中で共通認識といたしまして、ご議論をちょうだいいたしました崖っぷち状態にある日本からの脱出という強い危機感を共有いたしまして、「Active ICT Japan」というものの実現を目指すということを打ち出してございますので、そこを改めてご紹介させていただいてございます。また、国費の無駄といったことにつきましては、きちんとプロジェクトの選択と集中、あるいは評価、ＰＤＣＡといったことにつきましても、既に記載してございますので、改めてそこを紹介させていただいております。

それから、１６ページ目でございます。それぞれの戦略がばらばらに推進されることのないよう、関係性や実行する優先順位等の具体化をより深堀りするとともに、明確な指標を策定してＰＤＣＡが機能する評価を行う体制の構築が必要と考えるというご意見をいた

だいてございまして、まさしく今回のステアリングコミッティーといった部分におきまして、ＰＤＣＡサイクルの効果的な運用といったことに加えて、プロジェクトの選択と集中、評価等の実施を可能とする体制整備といったことを打ち出してございますので、そこに改めて言及しておるというところでございます。

それから、その下、３４番目のご意見でございます。従来の仕組み・制度の見直しは必須要件と考える。２０１５年、２０２０年までに必ず解決を目指す項目について、必要となる制度、規制をリストアップして、関係省庁合同で改善方針を策定して取り組むとともに、改善内容を広く周知する取り組みを要望するというご意見をちょうだいしてございます。

今回の報告書（案）の中でも、まさしくこういった規制、慣習、社会制度といった部分への対応の必要性といったことにつきましてもご議論をちょうだいしたところでございますので、改めてそういった内容を考え方ということでご紹介しておるところでございます。

それから、その次の１７ページ目でございます。ご意見３５番目といたしまして、光サービス提供における競争が機能するよう、公正競争環境を十分に整備する必要があると考えるというご意見でございまして、今回もアクティブコミュニケーション戦略の中におきまして、ブロードバンドの普及促進に当たっては、料金の低廉化、サービスの多様化を実現するための公正競争環境の整備といった方策を掲げてございますので、それをご紹介してございます。

それから、ご意見３６番目でございます。サイバー攻撃に対する反撃についても、具体的な方策として盛り込むことをご検討いただきたいということでございまして、政府レベルへのサイバー攻撃への撃退に向けた専門組織の立ち上げ、それから攻撃元の特定と攻撃元の無力化、攻撃元のネットワーク遮断といった対策が考えられるということでございます。

今回も安心・安全／高信頼ＩＣＴ戦略、いわゆるセキュリティ関連の戦略の中におきまして、国際連携によるサイバー攻撃等の発生を予知、それから即応するための技術の研究開発等といったことも具体的方策の１つとして掲げさせていただいてございますので、それをご紹介させていただくとともに、今後の政策を検討する際の参考とすることが適当と考えるという考え方でいかがかと思います。

それから、３７番目、速度の無保証がよくないと。プロバイダーは最高速度ではなく、最低速度を示すべきということでございまして、今回もアクティブコミュニケーション戦

略の中におきまして、ＴＰＯといったことを気にしないでコミュニケーションできるブロードバンドネットワークの展開といったことは既に掲げさせていただいておるところでございますが、ちょうだいしたご意見、今後の政策を検討する際の参考とすることが適当と考えるという考え方にさせていただいてはどうかと思います。

それから、１８ページ目でございます。ＩＣＴ文化に特有の技術格差問題への取り組みといったことをこの安心・安全／高信頼戦略の中に追記してはどうかということでございまして、永遠のビギナーの存在がサイバー攻撃の標的として一向に減らない現状の分析を促すべきだというご意見でございます。

今回も安心・安全／高信頼戦略の中で、デバイド問題への取り組みといたしまして、子供から高齢者まで対応したＩＣＴリテラシーの育成ですとか、だれもが安心・安全にＩＣＴを利活用できる環境の構築といったことも掲げてございます。また、アクティブライフ戦略といった中でも、障害ですとか年齢によるデジタルデバイド解消に向けた新たな技術開発支援等といったことも具体的な方策として掲げておるところでございますので、それを紹介させていただいてはどうかと考えます。また、今後の政策検討におきまして、参考とすることが適当と考えるという考え方ではどうかと思います。

それから、３９番目、４０番目でございます。リッチコンテンツ戦略におきまして、スマートテレビ、スマートデバイスを介したサービスビジネスの本格化について、無料、有料を問わず､既存の事業者が展開する事業との共存が重要と考えるというご意見ですとか、周波数全体の一層の有効利用につきまして、関係事業者を含む議論が必要と考えるということでございまして、こういった記載の今後の具体的進め方につきまして、ご意見をちょうだいしておるところでございます｡これに対しましては､今後の政策検討におきまして、参考とすることが適当と考えるという考えでいかがかと思います。

それから最後、１９ページ目でございます。サイバー攻撃の関連でございますが、サイバー攻撃に対する実践的なプロジェクトの要素技術の確立に当たって、特に攻撃耐性の高いクラウドストレージ技術の活用が有効と考えるということでございまして、こういったことを具体的に、攻撃耐性の高いクラウドストレージが組み込まれた防御モデルを構築するとともにという追記をしてはどうかというご意見をちょうだいしておるところでございます。こういった新たなサイバー攻撃に対する防御モデルの構築ということは、既に記載をさせていただいている部分でございますが、具体的な対応策につきましては、さまざまな技術的な対策、運用手法等による方策を講じるべきであること、それから、今後さらに

技術革新等も見込まれるという部分もございますので、当初から手段を限定いたしまして実施する、あるいは特定の手段のみを限定列挙するということは、今回は適当ではないのではないかと考えられるため、特にその記述の修正等は必要ないのではないかと考えられるということを示してございます。

それから、一番最後のご意見でございます。アクティブコンテンツ、リッチコンテンツの部分でございますが、ケーブルテレビ等と連携したリッチコンテンツ流通のためのプラットフォームの早期実現に向けた検討体制の整備といった記述が既にございますが、こういった中に、放送法の規定に基づく基幹放送普及計画、あるいはチャンネルプラン等との整合性に配慮といったセンテンスを追加してはどうかというご意見をちょうだいしておるところでございます。

当然、こういった法令の規定に基づく普及計画ですとかチャンネルプラン等との整合性に配慮するということにつきましては、具体的施策の推進に当たって、こういった整合を図ることは当然ながら必要となると。他方、今回の報告書では、ＩＣＴ戦略の全体的な方向性を示すということでございまして、必ずしもすべての方策について、こういった特に留意すべき法令等をすべて記載する必要はないのではないかと考えられることでございますので、追記の必要は特にないのではないかということを考え方の案としてお示ししてございます。

以上、４２件のご意見を紹介させていただいたところでございますが、今回のご意見を踏まえまして、特にコンテンツ関連の部分ですとか、衛星通信の関連の部分、サポート人材の育成確保、自治体によりますインフラの整備といった部分につきましては、適宜この報告書（案）の中、あるいは概要、パワーポイント資料案の中に追記をさせていただいてはどうかと考えられますので、本日ご意見をちょうだいできればと考えておるところでございます。

事務局から以上でございます。

【村上座長】　資料８－３についても宜しくお願いします。

【中村融合戦略企画官】　資料８－３につきましても、これまでご意見をちょうだいしたものでございます。改めてざっとだけ流れを確認させていただきますが、１ページ目、我が国のＩＣＴをめぐる環境変化ということでございまして、下げ止まらないＩＣＴ国際競争力、山積していく課題、激変するＩＣＴのトレンドということを幾つか挙げさせていただいてございます。さらに、これらのバックデータにつきまして、２ページ目、３ペー

ジ目でお示しをさせていただいてございます。

こういった状況を踏まえまして、これから策定いたしますＩＣＴ総合戦略において、新たなＩＣＴ展開スキームを打ち出す必要があるということでございます。これによりまして、崖っぷち日本からの脱出を図りまして、情報資源を利活用した国際競争力あるアクティブな日本の実現を目指すということでございまして、具体的にはユーザ視点、社会のアクティブ化、パッシブ・グローバルからアクティブ・グローバルへの転換を図るというActive ICT Japanの実現を目指すということを４ページ目で言ってございます。

それから、６ページ目でございますが、特に今回ちょうだいしたご意見を踏まえまして、社会実装等も念頭に置きながら、５つの重点領域を設定いたしまして、これまでの延長線的ではない新しいアプローチで取り組む必要があるということを６ページ目で言ってございまして、重点領域といたしまして、アクティブで快適な暮らし、ビッグデータの利活用による社会・経済の成長、リッチコンテンツの享受、堅牢で柔軟なＩＣＴインフラの構築、世界最高水準のセキュリティの実現といったことを５つの重点的な領域ということで設定させていただいてございまして、それぞれにつきまして、推進の必要性、背景あるいは諸外国におけます取り組みの状況といったことを７ページ目から１１ページ目までそれぞれまとめさせていただいておるところでございます。

１２ページ目におきまして、Active ICT Japanの実現に向けた５つの戦略ということでございまして、先ほどの５つの重点領域に対応する戦略、アクティブライフ戦略、アクティブデータ戦略、リッチコンテンツ戦略、アクティブコミュニケーション戦略、安心・安全／高信頼ＩＣＴ戦略といった５つの戦略を連動させて総合的に政策展開することが必要ということをうたわせていただいてございます。

さらに、こういった５つの戦略を進める上での具体的なスキーム、横ぐしの部分かと思いますが、真ん中にございます推進体制の整備、イノベーションを創出する総合的ＩＣＴ政策の展開、技術開発・社会実装と連動した新しいＩＣＴプロジェクトの推進、アクティブ・グローバル型人材育成、グローバル展開方策といったことを掲げてございまして、それらの全体像を１３ページ目に、イノベーション創出につながる社会実装型ＩＣＴ展開スキームの創設ということで、具体的なスキーム、進め方の５本柱ということでご紹介をさせていただいているところでございまして、１４ページ目から１８ページ目まで、それぞれの具体的な内容について言及させていただいておるというところでございます。

さらに、１９ページ目以降からは、先ほどの５つの具体的な戦略につきまして、２０１

５年に向けた目標、あるいはそれぞれの目標実現のための具体的な方策ということで、できる限り目標とする、ターゲットとする年度、ターゲットとする目標の内容が明確になる具体的な方策をお示しさせていただいておるというものが１９ページ目から２３ページ目にあるというところでございます。

一番最後に、まとめといたしまして、２０１２年度中に、こういった戦略を進めるための新しい推進体制を立ち上げて、ＩＣＴ総合戦略の推進を図ることが必要ということをお示しさせていただいておるというところでございます。

今回ちょうだいいたしましたパブリックコメント、ご意見を踏まえまして、特に全体的な骨組み、ストーリーの構成については、変更の必要はないかと考えてございますが、少し細かい文言の部分で追記、修正をさせていただいたところがあるというところが改めて全体像でございます。

簡単ですが、事務局から以上でございます。

【村上座長】　　パブリックコメントの結果につきまして、丁寧に説明をいただきましてありがとうございました。貴重な意見をたくさんいただきましたので、可能な限り反映させるということで対応しているということかと思います。貴重な意見をたくさんいただきましたが、今、中村企画官の最後の整理でありましたように、今回の報告書（案）の基本的なストーリー、シナリオについてはご賛同いただけるものが多かったということではなかったかと思います。

報告書（案）について前回までにご議論をいただきまして、今回はパブリックコメントの結果をご報告させていただきまして、それに対する対応の仕方ということで報告をさせていただいております。これでこのボードの検討としては最後になります。自由討議としますのでご自由にご発言をいただければと思います。

まず、岩浪さん、ご提出いただいた資料についてご説明をお願いできますか。

【岩浪構成員】　　それでは、お手元のラフのスケッチをご覧下さい。これは、私が以前に、ユーザの利用シーンのイメージが必要で、そのときに、よくあるサーバとかネットワークのシステム構成図なんかじゃだめですよなんていうお話をしたんですね。「ユーザ中心に書くべき」と言ってしまった責任払いとして、この作業をやっております。

現段階、これはまだラフをおこしている段階なんですけれども、考え方としては、まさに今言ったようにユーザ中心に書いています。利用シーンとか生活中心に書いているんですけれども、裏側に皆さんから出された研究開発要素とかＩＣＴに関する考え方みたいな

のが埋め込まれていると思って見ていただきたいと思います。これを全部説明しますと結構時間がかかりますので、各ページかいつまんで若干の説明だけさせていただきます。

１ページ目、「エンターテインメントが変わる」と書いてあって、上の段、わかりづらいかもしれませんけれども、これ、実際には未来のテレビの話なんですね。ユーザが入ってくると、部屋の中はある意味、待ち受けの空間映像みたいになっているんですけど、想定としては、サッカーの試合を、本来行きたかったんだけれども行けないので家で見るという想定です。このサッカーの試合というのは東京オリンピックという想定です。それで、バックグラウンドの設定としては、本来行くべきだったけど同じく行けなかった友達とか、あるいは実際スタジアムに行っている友達なんかと一緒にリアルタイムで試合を楽しんでいるというシーンです。ゴールしたりしたら、右下にありますけど、ハイタッチなんかもできるようになっているとか、そのようなイメージにしております。

次のページは、「家が変わる」というテーマです。左側に「ライフログ」と書いてありますが、どっちかというとこれはライフログじゃなくて、ライフレコーダーみたいなものです。この家はいろんなところにカメラとかが設置してあって、ずっと生活を撮っておいてくれるので、赤ちゃんが生まれたら、その時からまさにいろいろな人生の、入学したり何だり、そういうシーンを全部記録しているというお話です。これは家全体が高度なＩＣＴ装備になっていると考えていただければと思います。

屋上は、グリーンとかソーラーパネルは当たり前みたいな時代ですよという感じです。

右のほうでキッチンのシーンがありますけど、冷蔵庫の中身とか足りないものとか賞味期限がわかるなんていうのもこれも当たり前なんですけど、肝心なのは、近所の八百屋さんともつながっているという設定にしてあります。近隣の商店街とのやりとりなんかが実際ＩＣＴによって実現しているという感じです。

右下の電力が自由に云々というのは、とりあえず入れてあります。

左下は、例えば普通に寝ていたりトイレに入ったりしているだけでちゃんと健康管理がなされていると。

このような感じですね。生活の中心はどうしても家なので、家がいろんなＩＣＴ技術によってどういうふうに変わっているかということをあらわしております。

次のページ、「ビジネスが変わる」ということになって、上の段が、ちょっとこれはグーグルグラスの説明の絵になっちゃっているところもありますが、確かにその部分もあるんですけどね。ただ、ここのポイントは大容量の知識データベース的なところが主で、バッ

クグラウンドストーリーとしては、日本人が海外に行ってビジネスする際などを想定しているんですけれども、リアルタイムの言語翻訳はもちろんのこと、現地の文化や生活スタイルの情報とか、あるいは、交渉相手のビジネスの情報などが、日本人ビジネスマンの知識情報インフラみたいなものに日本人が全員アクセスできるので、ある意味、日本人はみな優秀なビジネスマンになっているという想定です。

左下は、地方でも行楽地でもどこにいても国際会議なんかにも参加できる、若干のガジェットを持っていくと場所とかを問わずにどこでも仕事ができるという話です。

右のほうは、農業管理なんかを、まさにロボット的なところも含めてＩＣＴが支援することで、高齢者の方もずっとお仕事が続けられるといったイメージです。

ページをめくっていただいて４番目、これは、以前私は日本の店舗が全部アマゾンのショールームになっちゃうという発言をしたことがありますけど、それの逆をねらっています。「ＩＤタンク」と左側にありますけど、少し厚めのＳｕｉｃａカードにストレージと超高速な近接通信機能がついているみたいに思っていただければいいと思うんですけど、これを持っていて、いつも会社の行き帰りに通る商店街で本でも映画でもデジタルコンテンツを買いましょうということですね。したがって、この商店街にはそういうデジタルコンテンツを販売するインフラが当然のことながら整っていると。コンセプトとしては、何を読みたい、何を見たいなんていう話は、人との会話とか接触の中でそういった気持ちになるということがやっぱり多いだろうし、それの方が楽しいでしょうということです。

この仮称ＩＤタンクというのは、これで実際ローカルにコンテンツをダウンロードして買うというイメージです。さっき逆だと言いましたけど、買うのは近所の店で買う。仮に見る装置がアップルやアマゾン製になっちゃったとしても、買うのはこの本屋さんで買うんだというイメージですね。むしろそれらの端末画面をジャックする感じで、鞄の中にこれが１つ転がっていれば、見るべきデバイスは特に選ばずといった想定です。そのような話が、これは本屋さんのシーンもそうだし、右の方の絵はカフェで何か話していてそういう話題になったときに即座に売れるような装備がお店側にあると。こういったイメージです。

左下のほうは、傘とか服に対するデジタルコンテンツ商品が登場しているというイメージですので、ＩＤタンクのところとはストーリーがちょっと違うんですけど、いずれにせよこれは中川さんがおっしゃったエンハンストモビリティでしたっけ、そのコンセプトを本当は表現したいと思っているんです。ＩＣＴがあるからまちに出歩くんだという話にす

るには、商店街側にそういうＩＣＴ装備があるといったイメージです。

次のページにいっていただいて、「まちが変わる」、一番上がコミュータみたいなことが前面に出ちゃっていますけど、最初これは、交通渋滞をビッグデータを活用して完全にコントロールみたいなイメージで書いていたんです。しかし、１人乗って３人空席の車を、未来はどのぐらいまでみんな乗っているかなということもあって、コミュータと、さらにいくと、まちの中心部ではカーシェアリングになっているという想定にしています。

まち自体がそういう装備しているので、高齢の方でも手ぶらで安心して出掛けられると。右下のほうは、まち全体がある意味ガイド機能を備えているので、出歩くことばかりじゃなくて、いろいろと楽しんだり、買物したりということも支援可能になっているので、まさに誰でもアクティブに動けるというイメージです。

左下の「減災誘導」と書いたところは、これはあまり想定したくない未来ですけど、例えば首都直下型何とかという決定的な大災害が起きたときにも、個人に適した避難誘導ですね。一律、どこにいる人はどこにじゃなくて、その方に体力があるのか、怪我しているのかとか、各人の状況に応じて適切な誘導を行って減災をしようと、このようなイメージです。

ざっと説明させていただきましたけど、これはまだ本当にラフの段階で、この後、当たり前ですけどキャプションとかもちゃんと精査して、色をつけて添付したいと思っております。ご意見、アイデア等も含めて、いただきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

【村上座長】　ありがとうございます。以上が報告書とパブリックコメントと岩浪さんからのご提案でございます。

あとはご自由にご意見をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。今日はできるだけ皆様に一言ずついただければと思っております。

【関構成員】　岩浪さん、これ、この提案のどのくらいをカバーできてますか、割合として。

【岩浪構成員】　バックグラウンドでどの技術みたいなのは相当入れ込んでいるつもりです。一応、大項目は全部カバーしてきて、個別の要素でいくと７，８割ぐらいは入れ込んでいるつもりなんですけどね。よくよく見ると、このシーンにはこの技術要素が埋まってるよねとか、ちょっとこじつけもありますけど。

【関構成員】　いや、よくできてます。

【岩浪構成員】　　そうですか。ありがとうございます。

【村上座長】　　どうぞ。

【野村構成員】　　この絵コンテが、すごく夢がある内容で、とても感動いたしました。最近、ソーシャルメディア上のいろいろなビジネスの場面で、シェアリングだとかリコメンドがキーワードになっていて、それらがこの中に盛り込まれていますが、特に私がこのご提案のなかでも非常にいいなと思ったのが、オンラインの中で終わるんじゃなくて、オンラインからオフラインに行っていると。前に中川さんがおっしゃられたモビリティがきちんと反映されていて、まさにオンラインでできることを実際の生活の中に落とし込んで活動や行動につなげていくということでは、非常に意味あるご提案なんじゃないのかと思っております。

それから、「２．家が変わる」というのが、デジャブのような感じがしています。というのは、実は昔１５年ぐらい前に、パナソニックさんが「eHIIハウス」という名称で、青物横丁で展示をやっていらっしゃいまして、その内容がまさにこの絵コンテと同じことをやろうというご計画でした。ただ、そのときには、多分ネットワークのキャパシティだとか技術面の進化とか十分ではなく、まだまだアイデアと社会実装が十分に結びつかなかったということだったのではないのかと思うんですけれども、過去にこういういろいろなアイデアが出てきて、できなかったことというのは、パブリックコメントでもあったんですけれども、やはりその検証が必要なのかと思っております。技術のほうの制約もそうだと思うんですけれども、多分、制度的な制約というのは、この１５年で、技術は進化したけれども、制度が変わってなくて障害になっているという部分が非常に多いと思いますので、ここは行政に期待すると申しますか、制度的な制約をいかに緩和していくか、それが今までの基本戦略の方向性として打ち出したものを実現するための大きな鍵となると思います。ぜひ、この絵が２０２０年、あるいは、２０３０年に実現するように一歩ずつ着実に進めていっていただけたらと思いました。

【村上座長】　　ありがとうございます。

三輪さん、何かコメントありますか。

【三輪構成員】　　おっしゃるとおりでございまして、弊社はもう今売ってしまいましたけど、青物横丁のあのビルでやっていたのは、まさにこういうインテリジェント化された家だったんですね。やはり技術が、ネットワークの帯域なども含めて足りていないという状況と、それから、暮らしがどう変わるんですかという、これはいつも岩浪さんがおっし

ゃっている本当にユーザ中心の視点になっていたかという、そこはおそらく反省材料だったなと思うんです。そういう点では、この絵の中で、まさにさっきおっしゃったオンラインからオフライン、いわゆるバーチャルだけではなくてリアルの世界でも充実をさせていくようなコンセプトがたくさん描かれているというのは非常に力強いことだなと感じるわけです。

また、家も、両親に子供２人におばあちゃんの５人家族で住むみたいな標準家族という考え方がまだ弊社もどうしても抜け切れない部分はあるんですが、世の中的にはシェアハウスですとか、高齢者、独居老人に学生をマッチングさせるとか、そういう動きが出ていますので、おそらくそういうものもこの中でもう少し表現されると、さらにフューチャリスティックですばらしいのではないかなと思った次第です。岩浪さん、本当ありがとうございます。これ、すばらしいです。

【村上座長】　それでは、所さんから順に一言ずつコメントいただけますでしょうか。

【所構成員】　紆余曲折はいろいろありましたけれども、大体私どもが言いたいことは入ったと思います。これは事務局の皆様、本当にありがとうございます。

それから、パブコメのほうも全体に対してはいいご評価をいただいて、個々にはいろいろあっても、全体はそういうことでよかったと思います。これからが実は大事で、ビジョンは出したものの、これをどうやって具体化していくかということになりますので、ぜひとも引き続きどうぞよろしくお願いしたいと思います。何かお手伝いできることがあれば喜んでお手伝いしたいと思います。どうもありがとうございました。

【野原構成員】　これまでたくさんいろんなことを発言してきまして、事務局の方にも、それから座長にも大変工夫していただいて、きれいにまとめられたと思っています。

今、所さんも言われように、これからこれがどういうふうに本当に具体的なアクションに落とし込まれていくのかが一番気になるところで、それはまずこれをアウトプットした後ということになるかと思いますので、ぜひこの後も、ただコンセプトとして終わらないで、実際に一つ一つ着実に動いていくように、そして、その進め方自体に改革があるように、ぜひしっかりやっていただきたいと思います。

今、岩浪さんに見せていただいた絵も、ここまで岩浪さんがやるんですね、すごいという。

【岩浪構成員】　絵字体は絵描きさんに書いてもらってるんですよ。

【野原構成員】　もちろんです。岩浪さんが自分で書かれたとは思っていませんけど、

本当にすばらしいと思います。

これはこれですばらしいと思いますし、いい形で中に入れ込んでいただきたいと思うんですけれども、ただ、みんなの思いがあまりにたくさん詰まっているために、初めて見た人にとっては、どこを見たらいいかわかりにくくなっている気がします。前から申し上げているように、副題等で表紙にちゃんと「Active Japan」という名前を入れてほしいと思います。そうすると、「Active Japanって何？」とまず思うわけですから、それについてわかりやすく説明されること。５つの戦略がメインだとちゃんとわかるように。その辺の見せ方を工夫する必要があると思いました。本当に長い間お疲れさまでした。

【村上座長】　今ちょっとタイトルのことが出ましたので、資料を配っていただけますか。

私からご提案ですが、これは野原さんから以前よりずっと副題にあたるものが必要なのではないかというご意見をいただいておりましたものに対応するものです。１つ提案ですが、「Active Japan」で、肩に累乗記号をつける。その累乗記号を「ＩＣＴ」にするということを提案させていただきたいと思います。これで読み方は「アクティブ・ジャパン戦略」と読む。要するに、Active Japan戦略というのは、e-Japan、u-Japanの延長線上で見ますと、ちょっと性質が違うんですよね。e-Japan、u-Japanというのは、そのままで全体がだれでも想像できるのですが、Active Japanというのは、それだけでいうとＩＣＴができることよりはるかに広いことを意味する可能性があるということで、それがずっとひっかかっていたんですが、この戦略はＩＣＴができる限りにおけるActive Japan戦略ですよ、という意味で、累乗記号のパワーを、普通、ここは２乗だったり３乗だったりｎ乗だったりするわけですが、ＩＣＴという文字を入れてみたらどうかという提案です。これは数学的にも英語的にも存在しない表現です。２乗、３乗、ｎ乗という表現はありますけれども、ＩＣＴ乗というのはありません。

それから、英語表現しますと、例えば１０のｎ乗ですと、「10 to the nth power」というふうになるわけですけれども、その形でこれを読みますと、「Active Japan to the ICT^{th} power」と。「ICT^{th}」って何だろうということになるわけで、これは英語表現としてもこういう表現の仕方はないのですが、その心は、ＩＣＴで累乗化するということですので、読み方として、もし英語で読むとすると、「Active Japan powered by ICT」ということです。これでActive Japan戦略と読んでいただきまして、ＩＣＴによってアクティブに活性化されて、何層倍もの力を発揮する日本を実現すると、日本を元気にする戦略だということを

読み取っていただければということで、こういう提案を私からはさせていただきたいと思います。まだ議論の途中ですので、反論のある方はどんどん言っていただければと思います。

【野原構成員】　　すばらしいと思います。賛成です。

【村上座長】　　どうもありがとうございます。

　では続けて、三膳さん。

【三膳構成員】　　こういう名称とかにはセンスがないのでお任せしますという言い方をしては失礼かもしれませんが、とても発想としてはいいと思います。

　個人的には非常に網羅的に書けた、カバーできた議論だったと思います。長時間にわたってできたというところがあったし、やるべきことが我々自身としても盛り込めて、それがパブリックコメントでも評価いただけている部分もあるなと感じていて、ちょっと報われた気はしていますし、事務局の方にもご協力いただけて本当よかったなと思っています。

　ただ、村上先生がおっしゃったとおり、僕らに将来の日本の設計をしろと言われても困るわけで、やりたい将来像が、ちゃんとコンセンサスがあって、そこでＩＣＴが果たすべき役割をこう組み立てていくという筋道がうまくつくれてない。日本の進むべき道みたいなところは、もうちょっとどこかでちゃんとつくられないと、この先、幾らＩＣＴで頑張っても不幸になるだけだなという気もちょっとしています。

　それからもう一つ、いろんなコメントを見ていて、細かいところとか技術、応用とか入ってきますけど、戦略ってそんなに細かいものではなくて、基本的にそんなころころ変わるものでもないはずで、戦術ではなくて、あくまで戦略って、もっとストラテジックでやるべきことがわかるものをちゃんと示せなきゃいけないんだろうなという思いはあります。だから、もっと揺らがないＩＣＴ戦略みたいなものをどこかでもう一個組み立てられるようなチャンスがあればそこを目指していくようにできればいいのかなと。この辺は、反省というよりは、これをやれたから次の欲みたいな形で、何か骨となる戦略がつくれたらいいなと思いました。

　以上です。

【森川構成員】　　今回のまとめでは、私が印象的なのは、下げ止まらないＩＣＴ国際競争力とか崖っぷち日本ということを明言したことです。それはいろいろな人が認識していたことではあるんですけれども、ここ数年、本当にいろいろな人たちが危機感を、もう真に感じている中で，国もそれをしっかりと受けとめたというのは、一つ重要なことなのか

なと思っています。

さらに、これを続けていこうとすると、結局のところ、民というか、現場が動かないといけないので、民から国に遠慮なくいろんなことをお願いするというか、依頼するというか、そういったチャネルをもっともっと深くしていくことが重要なのかと思います。そして，いろいろ上がってきたものをきちんと交通整理をして対応していく。まだまだ日本は民が少し遠慮しているところが致し方ないところでもありますが、そのあたりを変えていかないといけないということが重要なのかなと思っています。

次のステップとしては、こういった形で今回まとめたものに続けて、先ほどの発言にもありましたが、国のあり方みたいものがガラガラポンと変わっていくようなフェーズに入ってきている中で多くの人達が知恵を絞っていくことになるのかなと。例えば、製造業のあり方しかり､あるいは海外にある会社を引っ張ってくることをいかに考えるのかも含め、大きな変動が今なされていると思いますので、こういった検討を介して、次に向けて多くの人が知恵を絞っていくことか重要なのだろうなと思いました。

感想になりますけれども、以上です。

【江村構成員（代理)】　本日、江村の代理で出席させていただいておりますＮＥＣの山田でございます。大きな戦略として弊社といたしましても合意感のある内容に仕上げていただけたものと考えております。

次のステップが非常に重要だと理解しておりまして、具体的な活動、先ほど戦略と戦術というお話もございましたし、具体的な方策としての進め方というので森川先生からもご意見をいただいたところでございますが、例えば５つの議論であったものを、弊社で取り組んでおりますソフト･デファインド･ネットワークですとかビッグデータに対する処理、それからセキュリティというものを具体的なプロジェクトとして技術開発に大きくコミットさせていただくということと、社会実装をきちっとやり切ると。岩浪先生に書いていただいた絵は非常にすばらしくてぜひ実現したいというものでございますが、実証実験で多々やってきているところもあると。むしろそれを本当に社会に定着させるまでやり切るというのがこれから日本全体として進めるべきところだと理解しておりますので、弊社としても前向きに取り組んでいきたいと考えております。

この次の段階としては、どう具体化していくのかという戦術の部分にも至るところを協力してつくって、共有した上で実現していくというところと、ＰＤＣＡを回しながら確認して進めていくというところに向けて協力させていただきたいと考えております。

以上です。

【嶋谷構成員】　新しい愛称、Active JapanのＩＣＴ乗って非常にいいんじゃないかと思いますね。powerという言葉もちょうどかかってますし、力強くてすごく気に入っています。すばらしいと思います。

報告書ですけど、全体として非常によくまとまったと思っていまして、パブコメがどんな意見が来るかなというのはちょっと気になっていたんですけど、非常にサポーティブな意見が多くて、ですからここで議論させていただいたことが方向感として間違ってなかったなという気がしています。

それで、さっき野原さんがおっしゃっていた、どちらかというと編集上の話なんですけど、例えば、さっきの資料８－３のスライド１２ページなんですけど、これが一番５つの戦略の骨子ですよね。ぱっと見たときに、さっきの岩浪さんの絵コンテと比べて、非常にビジーな感じなんですね。これで皆さんに啓蒙活動というか、推進活動をするのはやや無理があるかなという気もしていまして、この辺の打ち出し方は少し工夫されたほうがいいかなという気がしています。ぜひとも岩浪さんがつくっていただいたこの絵コンテみたいなものを、こういうものを総務省さんの報告でつくったのは多分初めてじゃないかと思うので、何かうまい形で付録か何かでつけていただくようなことで、皆さんの理解がより深まってドライビングフォースになっていくといいなという気がします。

【関構成員】　報告書はよくまとまっていると思いますし、初めにご紹介がございました意見に対する紹介も結構だと思います。

まさにこれから次のステップというところになりますが、たまさかちょうどこの議論をしている間にリッチコンテンツ関係では幾つかの検討会というか、研究会がスタートしておりますが、全体をどうまとめていくかというところもこれから次のステップとして非常に大きなことだと思いますので、報告書が上がった後で次のステップをどうしていくかというところをご検討いただければと思います。

以上です。

【堤構成員】　思い起こしますと、最初に連続・不連続の話をさせていただいて、両方ここに盛り込まれたなと思っています。当然ながら、インフラという意味では、連続性ということで、まさにこういうことをやる基盤になるところは、ここで盛り込んでいただいたというのは皆さんのご理解をいただいたのかなと思いますし、それから、不連続という意味では、サービスとか世の中の状況がそういう形で変わってくると。絵に描いていただ

くと、今見ると不連続というよりは連続性かなと思ってしまうようなところもあるんですけれども、サムシングニューというのが何か出てくるということがこれからもあると思いますけれども、こういう皆さんおっしゃられた戦略の中で次をやっていくということが必要かと思います。

それから、我々は話し合ってきたもんですから行間が読めるので、先ほどからの話というのは我々として理解できるんだけれども、確かに初めて見る人とかに対しては、皆さんもおっしゃられるように何か工夫をしないといけないんじゃないかなと。ですから、こういうお話を各所でされるとき、総務省の方もいろいろなところでこういうことをお話しされると思うんですけれども、表現方法と行間から我々が読み取れるようなことを伝えていただくということが必要じゃないかなと思います。

それから、ＮＥＣがおっしゃられたとおりですけれども、何でもそうなんですけど、日本の国で例えばこういうことを考えていると。多分諸外国でも同じことを考えているんですけど、結局、やり切れるかどうというところに最後差が出てくるんだろうと。我々、企業活動をしていても、コンペティターですので同じことを考えてやるわけですけれども、どこまでやり切れるかというところが最後の差になるということなので、ぜひやり切るということで、日本もまんざらではないよというほうに持っていっていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思いします。

【中川構成員】　日立の中川です。サブタイトルに関しては非常にいいのではないかと思います。弊社も「Inspire the Next」ロゴで、何でここに赤が入ってるんですかとよく言われたりもするんですけど、色が変わってると皆さん考えるので、カラーリング等含めた表現も合わせるとよろしいのではないかなと思いました。

また、今後に関しては、戦略からどんどん戦術に落としていくフェーズであると思います。パブコメなどを見ましても、視点として、地方自治体、特に被災地などは、ビジョンというか、ここにある絵コンテのようなものを見せられると、東京中心的な考え、都市中心的な考えというふうにとらえる方が多いのではないかなと思います。実際に生活の場で、地方で景気が低迷しているところ、それをＩＣＴの力で、沖縄なんかもそうだと思うんですけれども、日本の重要な一員であって、地域の活性化というのがやっぱりＩＣＴというのは一番力になると思いますので、そういった地方自治体に対する施策も戦術の中で盛り込んでいくと、パブコメでもご意見をいただいているケーブルテレビ業者さん等も含めて、２０２０年に皆さんがよかったなと思えるようなそういう政策に展開できるとよいなと思

います。

戦略から戦術に落とすとき、１点言いたかったのは地方自治体の話、それから２点目が、他省庁連携の話です。「by ICT」ということになりますと、実態はどうしてもほかの省庁と連携せざるを得ないところが出てくるでしょう。例えばモビリティでいいますと国交省、医療でいいますと厚労省、教育でいいますと文科省、エネルギーというと経産省と、そういったところがございますので、他省庁との連携をどう進めていかれるのかというところがわかりやすく示されることも重要と思います。経済産業省さんもＩＴ融合プロジェクトというのを、公募予告を６月７日に出されていますけれども、そういったところとの連携も、推進体制の整備に書いてございますけれども、現実にアクションに落としていく、戦術に落としていく必要があるのではないかと思います。

あと、最後に、戦術としてちょっと思ったのは、もともと「知識情報社会」ということで、クリエイティビティというんですか、議論の途中でもかなり創発という話が出てきたと思うんですけれども、そういう人々の知的活動を活性化する施策が戦術の中に盛り込まれることも重要なのではないかと。例えばコンテンツ、リッチコンテンツでいいますと、こんなデバイスがあってこんなおもしろいことができて楽しめてというだけじゃなくて、そういうものを自分たちがクリエイティブにつくっていくということが、みんなができるように、特に若い人ができるようになるということが盛り込まれていくといいなと思いました。

あと、このパブリックコメントのもとになった政策の社内議論でも、非常に内容が盛りだくさんで全部理解するのが大変だという意見が社内各所からありました。そういう意味でいうと、戦術に落とした後、それを執行していく段階においては、戦術のターゲット、ビジョンがどういうものかわかりやすく示すことも重要になってくるのではないかなと思いました。

最終的には、今２０１２年ですけれども、２０２０年に、１２年にあのとき議論して、その後５年間ぐらいこうやってきたことが実際にどれだけ、社会に定着したかが忘れずに物差しで評価できるような、ちょっと研究開発中心の意見になりますけれども、何か問題があれば軌道修正していって、その修正した内容がわかるようになるといったＰＤＣＡの回し方、それから最終的にどうだというケリのつけ方も重要になってくるのではないかと思います。

以上です。

【三輪構成員】　いろんなアスペクトからの膨大な議論を網羅的に盛り込んでいる中で、軸になっているものがぶれてないというまとめに関しては本当に敬意を評する次第であります。皆さんおっしゃっていますが、あとはユーザセントリックだとか社会実装だとか、それを具体的な形で落としていくためには、国の制度的な課題、省庁連携、あるいは文化的なといいますか、今若い方が本当に元気がないとか言われている中でやらなきゃいけないことはいろいろできますので、これの実装に関しましては相当気合を入れてやらないと、なかなか絵に描いたもちになってしまうなということを強く思う次第でありまして、当然のことながらつくるのに参加した者の１人として今まで以上に汗をかくつもりでいますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、皆さんもおっしゃっていますけれども、非常に膨大な網羅的な最終報告書になるので、多分わかりにくいでしょうと。そういう意味では、まさにここはリッチコンテンツ戦略を実装、実際に実行する場所でしょうと。その１つが今日ご提案いただいた岩浪さんのああいうユースケースを漫画で表現という、しかも日本の得意分野で、これはという、こういうことなんだと思うので、ぜひ一つの実践の第一歩としてそういう工夫をしてみられるのもいいのではないかと思った次第です。

以上です。

【岩浪構成員】　もう皆様の発言で、ほとんど含まれておるんですけれども、森川先生がおっしゃった、今後戦略を立てるにはどんなに厳しかろうとまず現状をちゃんと認識すると。実際、今非常に厳しい現状をこの報告書でははっきり書いてあるわけですけど、これは本当に森川先生がおっしゃたように画期的で非常に重要だと思っています。

それからもう一つ、野原さんがおっしゃった、この後、方法論の改革が重要であるというお話も大賛成です。

あと、書きかけのまだ中途段階のイラストの説明を今日させていただきましたけれども、野村さんがおっしゃったように今までのＩＣＴとのとらえ方の違いは、内にこもるんじゃなくて外に出ていくというあたりが随分今までと違う点だと思ってやっておるつもりです。この作業、絵のリレーションあたりが私じゃ力不足なので、本日、実は一緒に手伝っていただいているビー・ナチュラルの林社長もあそこにいらしております。私も林さんも各社さんの資料を徹底的に読み込んで、日本の将来の研究開発に詳しくなりました。勉強させていただいてありがとうございました。

【村上座長】　さっきの中川さんのご要望はもう一枚必要だということですので、よろ

しくお願いします。

【岩浪構成員】　　中川さん、責任払いですから。ちゃんと手伝ってくださいよ。

【中川構成員】　　私は絵心ないんですが、社内におりますので。

【村上座長】　　ありがとうございました。この基本戦略ボード、これまで、このボードとしては８回ですが、５回の非公開の会合を続けてまいりまして、本当にボードとして一体になって議論をしてきたという感じがいたします。その結果として、非常に筋道が明確な戦略と、一部、戦術に一歩か二歩入ったような内容も含まれたような報告書（案）ができ上がったということで、やるべきことはやったのではないかという皆様のご認識なんではないかと思います。もう今日新たにつけ加えることはあまりなさそうで、先ほどのパブリックコメントを拝聴していましても、入れられるものは十分入れることができますでしょうし、大半がご賛同のご意見だったと理解できるものでありました。

そういうことを踏まえまして、修正すべきものを基本的には先ほど事務局から報告をしていただいたような方向で修正をさせていただきたいと思います。今週５日の木曜日に新事業創出戦略委員会と研究開発戦略委員会の合同委員会がございますので、そこに私のほうから報告をしてまいります。これは、堤さんがおっしゃいましたように、ボードの皆さんは行間をわかってらっしゃるんですが、行間を伝えなければいけないのは、まず座長の私で、私がまず、その役割を今度の木曜日に果たしてまいります。委員会に報告する資料につきましては、私のほうに一任をしていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、副題も含めましてそのような方向で進めさせていただきたいと思います。

今日は最終回ですので、座長としてのごあいさつをするところですが、内容的なところは冒頭に森田政務官が非常にいい総括をしてくださいましたので、もうつけ加えることはございません。

ちょっとお時間いただけるのであれば、議論のプロセスについて一言申し上げたいんですが、今申し上げましたようにこのボードは、2020年にむけてのICT戦略について、非常に濃密な議論をしていただきました。このボードは、研究開発というサイドと新事業創出というサイド、本来は水と油的な側面もある２つの側面の委員の皆さん半々で構成されているんですが、そういう中で、安易な妥協はしない、非常に弁証法的な発展のある議論をしていただきました。

私は、ICT戦略についていろいろな議論をこれまでしてきましたが、これまでの方法論で

いくとすると、大体３分の１ぐらいの時間でよかったのではないかと思います。スマート・ジャパンとか、スマートＩＣＴジャパンということでまとまって、それで出ていくという感じでした。そこから多様な議論が生み出されまして、その結果、非常にすばらしい、これまでとは一味違うものになったのではないかと思います。インフラとかネットワーク、あるいはプラットフォームをこうしましょうというだけではなくて、それらを統合して、一体ＩＣＴで日本は何をやりたいのか、我々は何をやりたいのかということを突き詰めて議論をすることができました。その結果として今日のような成果がまとまったということでございます。

本日のご意見、いずれも共通していますのは、戦略から戦術へというところと、とにかくやり切るためにどうするかというところだと思います。次のステージにこれから入るということで、このボードとしてはきちんとした仕事ができたのではないかと思います。最後に個人的な感想ですが、私は非常にブレーンストーミングが好きで、野村総研時代はエキサイティングなブレーンストーミングをたくさんやってきました。ここ１０年ぐらいは現場から離れてあまりやってなかったのですが、はからずも、この場ですばらしいブレーンストーミングを経験をさせていただきました。ただ、これを２回はやりたくないなというのが、私の正直な今の気持ちでございます。

ということを申し上げまして私からのごあいさつとさせていただきます。最後に事務局から事務連絡をお願いします。

【中村融合戦略企画官】　先ほど村上座長のほうからございましたとおり、今週木曜日、新事業創出戦略委員会、研究開発戦略委員会の合同委員会がございますので、そちらのほうで改めましてこのボードでのご議論の中身につきましてお諮りいたしましてご議論いただく予定でございます。その結果等、また皆様にメール等でフィードバックをさせていただければと考えてございます。

事務局から以上でございます。

【村上座長】　それでは、これで第８回の基本戦略ボードを終了とさせていただきます。皆さまどうもありがとうございました。

以上